

# 相馬病院看護部目標紹介

24度の相馬病院看護部目標をご紹介します。  
現在の看護部体制になって、今年で7年目を迎えることとなります。  
今年度は昨年度からの目標を引き続き、そして「安全強化」については『防災』について考える年度にしたいと思っています。

## ★★平成24年度看護部目標★★

### 『良質な看護の提供』

自分の立場をわきまえて、  
相手の立場に配慮した関わりを行う

「これで良いのか？」振り返る、  
「何故かな？」と疑問に思う、  
「こうだから！」と説明する

- I. 安全強化  
当院の理念に沿って、自分たちが出来る防災対策について  
考え、可能なことから実施していく
- II. 標準化
- III. 説明強化
- IV. 継続強化



昨年度から看護部の目標は、方向性を指し示すのみとして、具体的目標は所属長が掲げています。各所属長が自主的な目標を設定する事で、各科の目標到達意識を高める狙いがありました。

昨年度の目標に対する看護部長としての評価は、四項目全てについて何らかの成果は上げられたのではないかと思います。但しⅠ・Ⅱ・Ⅲの項目については前年度からの継続目標であり、ようやく成果が出てきたと言えます。

Ⅳについても訪問看護ステーションの開所や、在宅療養支援病院としての役割の拡大といった成果からも、一定のプラス評価が出来るのではないかと思います。

しかし「振返り」や「疑問に思う」といった各個人の勤務姿勢についての目標についてはまだまだ満足いくレベルには達していません。

当院は地域に密着した中小規模の病院です。そうした役割から考えて当院のナースとして要求されることは、専門性はもちろんのこと全般的な知識や看護姿勢が非常に大切なスキルとなります。

そういったナースを育成するためにも「振返り」や「疑問に思う」ためには現場でのさまざまな情報や知識を自分の中で再構成して、解決へと導くきっかけとなる「気付き」が重要になると考えています。この「気付き」という姿勢は他からいくら言われても身につくものでなく、各個人がいかに問題意識、注意力を持って日々の勤務に取り組むかにかかっています。こういうことから来年度も継続して目標に掲げて無意識のうちに「気付き」が出来るナースを育てたいと思います。

これに加えて昨年度の医療監視で保健センターの職員の方からご指導頂いた事に取り組むつもりです。

具体的には「Ⅰ. 安全強化」の項目に防災対策強化を取り入れます。東日本大震災が発災して一年が過ぎました。こうした自然災害は防ぎようがありません。しかし医療従事者としてこういった状況の中でも組織の一員として、家族の一員としてこういった準備、心構えをしておくべきか？それを今期の新たな検討課題として取り組んでゆきたいと思います。

## ★★平成 24 年度外来・手術室目標★★

### 『自分が受けてみたい看護を考える』

今年度は引き続き、外来組織の体制作りを重点に、外来・手術室チームの現場意見のすくいあげで看護の質の向上に努め、チームのレベルアップとチームワークを強めたいと考えています。

昨年度は、患者様の安全・安心を最優先に、チームの現状調査に取り組み、自分が当院を患者として受診した場合『自分ならこうしてほしい』の思いをチームで考える年でしたが、今年度は実行していく 1 年にしたいと思います。

安全強化では防災意識を高めるために、非常時を想定して迅速に正確に情報が伝わるようトレーニングを実施、緊急連絡体制をルール化します。

標準化・説明強化では、継続事項として看護技術の再確認や看護指導のための指導書の見直しをチームリーダーが計画し、集団指導を実施する予定です。

継続強化では他部署との情報交換を密にした連携で、退院後の患者様が安心して在宅生活を送れるよう支援させていただきます。

良質な看護の提供を目標に患者様・家族様から信用・信頼される外来・手術室を目指します。

## ★★平成24年度2階病棟目標★★

### 『看護の喜びを感じられる』

2階病棟の目標は昨年と継続しているものがほとんどです。

この事は、出来ていない事は出来るように、出来ている事も継続出来るようにという思いからです。「当たり前のことを、軽くみないできちんとする」この事を日々継続していくことが、大切だと考えています。

「いつも相手の立場に立って考え接する」、これは私の科長としてのモットーで、日々スタッフと共に取り組んでいます。自分ならどうか？自分ならどうして欲しいか？を考え、個々が、問題意識をもって行動する事で「気付き」のある看護を目指していきたいと考えています。そして「気付き」をスタッフ全体で振り返ることで、より一人ひとりの患者様にく良質な看護が提供出来るよう、個別性のある看護の提供をしていきたいと思っています。

看護の喜びは、患者さまに寄り添うことから、そして共に働く仲間との連携から生まれてくるものだと感じています。昨年は大震災にもみまわれ、患者様の立場に立って自分達にできる防災対策を考えることも、今年度の目標であり課題です。

相馬病院看護職員としての自分の立場を理解し、心を一つにして一人ひとりを大切にする病棟を目指していきます。

## ★★平成24年度3階病棟目標★★

### 『“これでいいのか振り返り、自分ならこうされたい”』

### と考える看護をしよう』

日々私たちが行っている看護が「これでいいのか？」と振り返る事や、自分の家族だったらどうしてほしい？自分ならこうされたい、と思えるような看護部の理念に添った看護の提供を目指しています。そういった関わりを通して私たちは多くの学びや喜びをいただいております。

安全強化として昨年度はベッド周囲の環境整備に力を入れていきました。これは入院患者様のベッド周囲は、入院中の生活の場であり、日ごろから整理整頓・清掃の環境を整えるのは安全の第一歩であるという考えの下です。この考えを継続した上で今年度は、新たに「防災対策」を加え、自分たちができる防災対策を考えていきます。

継続強化としては、「入院から退院後までの生活を見通した看護の提供」をより深めるために、訪問看護に同行して自分たちが入院中に行った看護を振り返ります。定期的に振り返りを行うことで、一人ひとりの患者様に寄り添った看護の提供ができるようスタッフとともに考えていく1年にしたいと思っています。

## ★★平成24年度透析室看護目標★★

### 『安心感を持ってもらえる様な看護の提供』

透析患者様にとっては、安全に透析治療が受ける事ができ、透析中安楽に過せる事が一番です。私たちの使命はそういう場所を提供する事が最優先であり、昨年度に引き続き安全・安楽を看護目標として継続しました。身体的にも、精神的にも安全で安楽でいられるように、自分たちが出来る事、しなければいけない事を考えていきたいと思ひます。その一つとして、今年度の看護部の安全強化対策の防災に関しては、全国ネットで対応を考えてみます。

昨年の東日本大震災後より、日本透析学会が災害時の情報ネットワークを開設し、震災後の透析患者様の受け入れや依頼など、全国規模で把握が出来るようになりました。

患者様やスタッフも災害に対する危機意識が高まっており、災害規模の大小にかかわらず、患者様と共に話し合い連絡方法や、避難方法など一緒に考える年にしていききたいと思ひます。

人は誰でも安心したい、安全でありたいと思ひます。患者様に安心感を持ってもらえる事が出来るような、そんな存在になれるようにスタッフと共に看護の提供について考えていきます。

## ★★訪問看護ステーション★★

### 『地域に密着した看護の提供』

当訪問看護は昨年の目標を達成し、5年目という節目を『訪問看護ステーション』として迎えることができました。

今までは、訪問の可能な利用者様が限られていましたが、ステーションになったことによ

り制限がなくなり、たくさんの方にご利用いただけるようになりました。

病院としては、訪問看護ステーションと訪問診療・居宅支援事業所・地域連携室が一丸となり、地域の皆様が安心して住み慣れた自宅で過ごしていただけるよう、体制を整えました。

訪問看護ステーションも病院と同様、地域に密着した看護の提供ができるよう、また

『**安心**』をお届けできるよう、スタッフの基礎力強化や院内・他事業所との情報の共有を更に深めていきます。また、在宅防災マニュアルの理解を深め、利用者様へ説明指導を行っていきます。